

STARTER KIT | FOR LICENSED ACUPUNCTURISTS

保険制度に頼らない 高単価美容鍼メニュー 導入ガイドブック

なぜ美容鍼は“1週間後”に戻るのか？

科学的根拠と収益設計から考える、
高単価でも選ばれる美容鍼メニューの作り方

無料PDF特別版

Free Edition

公式テキスト原稿付

Official Textbook Excerpt

全日本ダーマリペアセラピー協会

ダーマリペアセラピー® 導入講座

Japan Derma Repair Therapy Association

ABOUT THIS DOCUMENT

なぜ、この資料を作ったのか

美容鍼を導入している治療院は、いまや珍しくありません。
しかし、その一方で、こんな悩みを感じている先生も少なくないはずです。

TYPICAL CONCERNS | 現場でよく聞かれる悩み

- 効果は出ているはずなのに、高単価化しにくい
- 施術後は喜ばれるが、数日～1週間で戻ったと言われる
- 小顔・リフトアップ・血流促進だけでは、差別化しにくい
- 美容医療やエステと比較された時に、説明が弱くなる
- なんとなく効く、ではなく、理論で語れるメニューにしたい

美容鍼に必要なのは、単なる技術追加ではありません。必要なのは、次の3点を施術者自身が理解し、お客様に説明できることです。

POINT 01	POINT 02	POINT 03
なぜ効くのか	なぜ戻るのか	なぜ継続する価値があるのか

この資料では、ダーマリペアセラピー® 導入講座の考え方をもとに、高単価でも選ばれる美容鍼メニューに必要な視点を、25ページにわたって整理してお伝えします。
後半では、公式テキストの「はじめに」「詳細目次」「第1章」抜粋もご確認いただけます。

本資料は、特許取得済の独自ツール「ダーマリペアシート®」を含む、ダーマリペアセラピー®導入講座の考え方を整理した無料ガイドブックです。

皮膚科学・解剖学・収益設計の視点から、高単価でも説明できる美容鍼メニュー化の要点をお伝えします。

※ ダーマリペアシート®：特許第7855279号／発明の名称『装着型マイクロニードル装置』

READING GUIDE | この資料の読み方

- 前 半 P02–P14：高単価美容鍼メニュー化のための理論・市場分析・実務設計
- 公式テキスト 原稿PDF掲載 P15–P23
- 巻末 P24–P25：無料説明会のご案内・お申し込み方法

INSURANCE-DEPENDENT MODEL IS REACHING ITS LIMITS

保険依存モデルは、すでに限界に向かっている

いま、治療院経営を取り巻く環境は大きく変わりつつあります。
国の医療費抑制と社会保険料負担をめぐる議論は、鍼灸院・鍼灸整骨院の収益基盤にも
中長期で影響を及ぼす可能性が高まっています。

POLICY TREND | 財政制度等審議会で示された方向性

70歳以上の医療費窓口負担を、現役世代と同様に「原則3割」へ。
財務省の財政制度等審議会では、その実現に向けた工程表作成も提案されています。
出典：財務省 財政制度等審議会資料（2026年4月28日）
これは単に高齢者医療の話にとどまらず、医療・介護・療養費全体に影響しうる動きです。

01 医療費抑制の継続	02 現役世代の負担軽減	03 年齢から負担能力へ
国の医療費抑制は中長期の基調。 療養費を含む保険給付全体に 見直し圧力が及ぶ可能性があります。	社会保険料の引き上げに歯止めを かけるため、給付側の見直し議論が 一段と本格化していく流れにあります。	「年齢ではなく負担能力に応じた 負担」へ。 利用者の自己負担が増える方向に政 策の重心が移りつつあります。

IMPACT | 保険依存モデルへの影響

つまり、保険制度に依存した来院モデルは、これまで以上に不安定になっていくということです。
低単価・高頻度来院を前提にした経営では、受診控え、審査の厳格化、固定費上昇の影響を
受けやすくなります。

INSURANCE MODEL 保険に頼る来院モデル	PREMIUM SELF-PAID MODEL 技術と価値で選ばれるモデル
■ 低単価・高頻度来院が前提 ■ 受診控えの影響を直接受けやすい ■ 審査の厳格化リスクを抱える ■ 固定費上昇に弱い収益構造 ■ 制度改定のたびに揺さぶられる	■ 「全額自己負担でも受けたい」と思われる ■ 技術・理論を価格に転換できる ■ 制度改定の影響を受けにくい ■ 少人数施術でも収益が成立する ■ 国家資格者の専門性を価値化できる

だからこそ、これからの鍼灸院・鍼灸整骨院には、
「全額自己負担でも受けたい」と思っただけの高付加価値メニューが必要です。
保険に頼る時代から、技術と価値で選ばれる時代へ。

WHY IT FADES IN A WEEK

なぜ美容鍼は“1週間後”に戻りやすいのか？

美容鍼の施術直後には、次のような反応が出ることは珍しくありません。

「顔がスッキリした」

「目が開いた」

「フェイスラインが上がった」

しかし、問題はその後です。

施術直後の変化だけでは、
高単価メニューとして定着しにくい。

なぜなら、施術直後の変化の多くは、次のような比較的短期的な変化だからです。

Edema

むくみの軽減

Circulation

血流変化

Muscle Tone

筋緊張の一時変化

Mimic / Mastic.

表情筋・咀嚼筋反応

Autonomic Shift

自律神経の切替

もちろん、これらは価値ある変化です。

ただし、それだけをメニューの中心にしてしまうと、お客様からはこう見られやすくなります。

“その場では変わるけど、すぐ戻る美容鍼”

高単価化に必要なのは、短期的な変化に加えて、
中期・長期の変化までを意図的に設計することです。

STRUCTURAL VIEW | 「戻る」を3層で構造的に捉える

巡りの層

数日で戻る

むくみ・血流・自律神経の変化が中心。1～数日でベースに戻ります。

筋肉の層

数週で戻る

表情筋・咀嚼筋の使い方は習慣依存。単発では2～4週で戻りやすい層です。

皮膚の層

数ヶ月で動く

真皮リモデリングは長期。数ヶ月単位で「戻りにくい変化」を作る層です。

3 KEYS FOR PREMIUM MENU

高単価美容鍼に必要な3つの条件

高単価でも選ばれ続ける美容鍼メニューには、最低でも次の3つの条件が揃っている必要があります。

01 CONDITION	REPRODUCIBILITY 再現性 誰が見ても、何を目的に、どの層へ、どの刺激を入れているのかが説明できること。 「なんとなく」ではなく、術式の根拠が言語化されていることが、品質の前提条件になります。 同じ理論で別の施術者が再現できる施術こそ、メニューとして体系化できる施術です。
02 CONDITION	SUSTAINABILITY 持続性 施術直後の体感だけでなく、数週間～数ヶ月単位で変化を積み上げる設計があること。 短期・中期・長期で異なる組織にアプローチし、それぞれの時間軸で変化が出るようコース全体を組み立てているか。これが「リピートする理由」を作ります。
03 CONDITION	EXPLANATORY POWER 説明力 美容医療・エステ・従来美容鍼との違いを、専門家としてわかりやすく伝えられること。 皮膚科学・解剖学・生理学の言葉で価格の根拠を示せるか。 「24,000円である理由」をお客様自身が納得できるところまで言語化することが求められます。
CONCLUSION つまり、必要なのは 「なんとなく効く美容鍼」から、 「構造的に説明できる美容鍼」への転換です。	

BEYOND "AMBIENT" ACUPUNCTURE

“雰囲気美容鍼”から抜け出す

美容鍼の市場が広がった一方で、施術内容は玉石混交になっています。
専門学校の正規カリキュラムで美容鍼を体系的に学ぶ機会は限られています。
そのため、現場には次のような状況が広がりやすい構造的な理由があります。

Imitated menus without theory

見よう見まねで導入されたメニュー

他院のメニューや動画教材を参考に、術式の根拠を確認しないまま導入されてしまうケース。

Vague mechanism of action

作用機序の説明が曖昧な施術

なぜ効くのかを問われると、経験談や感覚的な表現に終始してしまう状態。

Over-reliance on sensory claims

感覚的表現に偏った訴求

「小顔」「リフトアップ」など印象語に依存し、専門性が伝わりにくくなる訴求。

Unclear tissue-level targeting

どの組織に何を起こしているか不明確な技術

皮膚のどの層・どの組織を対象にしているのか、術者自身も明確に説明できない状態。

もちろん、経験や感覚は臨床において重要です。
しかし、高単価メニューとして選ばれ続けるには、経験則だけでは不十分です。
国家資格者である鍼灸師にこそ求められているのは、感覚を裏付ける科学的な言語化です。

必要なのは、
皮膚科学・解剖学・生理学に基づいた「説明可能な」術式设计です。

WHAT IT MEANS | 「説明可能な設計」の3つの要件

REQUIREMENT 01

初期カウンセリングで説明できる

どの層に、何を目的として、どのようにアプローチするのかを、初回時点で伝えられること。

REQUIREMENT 02

施術中も同じ言語で語れる

「今、ここをこういう意図で調整しています」と、施術中にも一貫して説明できること。

REQUIREMENT 03

施術後の振り返りでも言葉にできる

何が、どの言語で、どう変わったのかを、コース設計に乗せた説明で言語化できること。

VS. MEDICAL / ESTHETIC / TRADITIONAL

美容医療・エステ・従来美容鍼との違い

高単価で選ばれる美容鍼メニューを設計するには、競合となる選択肢との「立ち位置の違い」を、自分の言葉で説明できることが不可欠です。

比較項目	美容医療	エステ	従来美容鍼	ダーマリペアセラピー®
主な価値	強い変化・即効性	癒し・美肌ケア	自然な変化	構造理解に基づく美容鍼
価格帯	高額になりやすい	中価格帯	院により幅がある	24,000円級メニュー設計
国家資格	医師・看護師	不要	鍼灸師	鍼灸師
説明の軸	医療機器・薬剤	化粧品・手技	経験・反応	皮膚科学・解剖学・生理学
施術の印象	効果は強いが不安もある	気軽だが限界もある	自然だが差別化が難しい	医療と美容の中間価値
主なリスク	ダウンタイム・侵襲	効果の頭打ち	効果が短期で戻る傾向	施術者の理論理解が前提
継続性	数ヶ月単位の通院	定期通いが基本	院により差	コース設計を前提化
高単価化	しやすい	難しい場合もある	説明力次第	理論と設計で狙える

POSITIONING | ダーマリペアセラピー® が目指す立ち位置

美容医療ほど強すぎず、エステほど表層的に見られず、従来美容鍼より説明できる。
「医療と美容の中間価値」を、国家資格者である鍼灸師が、科学的根拠と手技で提供する。
これが、ダーマリペアセラピー® が目指している市場ポジションです。

国家資格者が、科学的根拠と手技で提供する、
新しい美容鍼メニューというカテゴリーです。

MATCH THE LAYER TO THE CONCERN

悩みの“階層”に合わせて考える

顔の悩みは、すべて同じ層で起きているわけではありません。

むくみ、たるみ、シワ、肌質、クマ、ほうれい線。これらはそれぞれ関係する組織や時間軸が異なります。

ダーマリペアセラピー® では、悩みを大きく次の3つの階層で捉え、それぞれに対応する術式を組み立てます。

FLOW LAYER | SHORT TERM



巡りの層 | 短期変化

むくみ・血流・リンパ・水分代謝などに関わる層。

施術直後のスッキリ感や、印象としての変化が中心。

数日～1週間ほどで戻りやすく、この層だけを目的にすると「すぐ戻る美容鍼」と評価されがちです。

MUSCLE LAYER | MID TERM



筋肉の層 | 中期変化

表情筋・咀嚼筋・SMASとの連動に関わる層。

引き上がり感、左右差、表情の印象変化などに関わる。

数週間～数ヶ月で変化が積み上がり、コース継続の根拠となる時間軸を担います。

SKIN LAYER | LONG TERM



皮膚の層 | 長期変化

表皮・真皮・基底膜・コラーゲン構造に関わる層。

ハリ、たるみ毛穴、肌の土台感など、構造そのものの変化。

数ヶ月単位で進行するリモデリングを設計対象とし、長期コース・上位メニューの根拠となります。

高単価化の鍵は、“その場の変化” だけで終わらせないこと。

短期・中期・長期、3つの時間軸を意識的に設計してこそ、継続提案に説得力が生まれます。

SKIN AS A STRUCTURE

皮膚は「表面」ではなく、構造である

皮膚は大きく「表皮」「真皮」「皮下組織」の3層で構成されています。
美容鍼において特に重要なのが、肌のハリと弾力を担う「真皮」です。
真皮の状態を正しく理解することが、施術の設計と価格の根拠を支えます。

SKIN STRUCTURE

皮膚の3層構造

表皮 (Epidermis)

約0.2mm / バリア機能

真皮 (Dermis)

約2mm / ハリ・弾力の本体
線維芽細胞・コラーゲン・
エラスチン・ヒアルロン酸

皮下組織 (Subcutis)

皮下脂肪・SMAS層
保温・衝撃吸収

FOCUS：真皮への構造的アプローチ

FIBROBLAST

線維芽細胞

コラーゲン・エラスチン・ヒアルロン酸を生み出す、真皮の司令塔。物理的刺激により活性化することが知られています。

COLLAGEN

コラーゲン

肌の構造を支える線維。真皮の約70%を占め、強度・厚みに関与します。

ELASTIN

エラスチン

弾力性に関わる線維。一度壊れると再生しにくいとされる組織です。

HYALURONIC ACID

ヒアルロン酸

水分保持に関わる基質。肌の潤いとボリューム感を担います。

美容鍼を高単価メニューとして設計するなら、
「皮膚のどの層に、何を目的として刺激しているのか」を、施術者自身が説明できる必要があります。

TIME AXIS OF CHANGE

時間軸で見る美容鍼の変化

美容鍼の変化には、はっきりとした時間軸があります。

短期・中期・長期、それぞれで主に動いている組織が異なります。

高単価メニューを設計するには、3つの時間軸を分けて説明できることが不可欠です。

01IMMEDIATE / SHORT TERM TIME PHASE	02MID TERM TIME PHASE	03LONG TERM TIME PHASE
施術直後 ～ 数日 ■ むくみ・血流・リンパの変化 ■ 筋緊張の一時的な緩和 ■ 自律神経の切り替わり ■ 写真でも変化が出やすい ■ 数日～1週間で戻りやすい層	数週間 ■ 筋肉の使い方の変化 ■ 表情の癖・左右差の調整 ■ 姿勢・噛みしめの影響軽減 ■ 継続施術で変化が積み上がる ■ コース提案の根拠となる時間軸	数ヶ月 ■ 表皮ターンオーバーの調整 ■ 真皮リモデリングの開始 ■ コラーゲン構造の変化 ■ 「肌の土台」の変化 ■ 上位メニュー・継続契約の根拠

IMPORTANT | ここで重要なこと

施術直後の変化が悪いわけではありません。

問題は、施術者がその変化を、長期的な変化と混同してしまうことです。

「今日変わったこと」「1ヶ月後に目指すこと」「3ヶ月後に積み上げたいこと」を分けて説明できると、お客様の納得感は大きく変わり、価格に対する受け入れやすさも変わります。

MOLECULAR BARRIER OF THE SKIN

“塗るだけ”では届きにくい領域がある

美容業界では、「美容成分が肌の奥まで浸透する」という表現をよく見かけます。
しかし、皮膚科学の世界には、明確なバリア機能の存在が前提として共有されています。
これを理解することが、鍼灸師が美容領域で果たす役割の根拠になります。

RULE OF MOLECULAR WEIGHT

500ダルトンルール

健康な角質層には強力なバリア機能があり、
分子量500ダルトンを超える物質は通過しにくいとされる

COSMETIC APPROACH

塗る・浸透訴求の限界

コラーゲンは、約30万ダルトンと言われる大きな分子です。
塗っただけでそのまま真皮に届くと考えるのは、皮膚科学的には自然ではありません。
「奥まで浸透」という表現の意味を、専門家として正しく整理する必要があります。

ACUPUNCTURIST'S DOMAIN

鍼灸師ならではの領域

鍼は、皮膚のバリアを物理的に貫通し、真皮層を直接刺激できる数少ない手段です。
化粧品や一般的なエステでは届かない領域に、線維芽細胞への力学的シグナルを与え、
コラーゲン産生に関わる生体反応を促す可能性があります。

皮膚のバリアを理解し、物理的刺激によって組織反応を引き出すこと。
これは、化粧品や一般的なエステでは代替しにくい、鍼灸師ならではの価値領域です。

SELF CHECK FOR YOUR CLINIC

あなたの美容鍼は、高単価化できる状態ですか？

以下の各項目について、自院の現状をチェックしてみてください。
チェックの数が、現在の高単価化レディネスの目安になります。

TECHNICAL DESIGN

技術設計

- ☐ どの層に何を目的として刺激しているかを言語化できる
- ☐ むくみ・筋肉・皮膚の変化を、組織レベルで分けて説明できる
- ☐ 施術直後の変化と長期変化を分けて設計している
- ☐ 顔だけでなく、全身状態との関係を施術に反映している

COUNSELING

カウンセリング

- ☐ お客様の悩みを階層別(巡り・筋肉・皮膚)に整理できる
- ☐ 1回で終わらない、コース全体としての設計を提示できる
- ☐ 美容医療・エステとの違いを科学的根拠で説明できる
- ☐ 価格に対する不安に、理論で答えることができる

MENU DESIGN

メニュー設計

- ☐ メニュー名から専門性と差別化ポイントが伝わる
- ☐ 施術内容が「美容鍼を追加しただけ」になっていない
- ☐ 初回体験から本コースへ、無理のない導線を設計できている
- ☐ 写真・説明資料・アフターケア指導が体系的に揃っている

READINESS LEVEL | チェック数の目安

0 ～ 3個

設計と言語化が不足。
まずは理論の再確認から。

4 ～ 7個

骨格はあるが言語化余地あり。
カウンセリング設計を見直す余地
があります。

8個 以上

高単価化の準備は整っています。
他院との差別化に進める状態。

PRICE STRUCTURE CHANGES THE CLINIC

24,000円メニューは、院の収益構造を変える

美容鍼を低単価で提供し続けると、施術数を増やすことでしか売上を伸ばせません。
一方で、高単価メニューが作れると、少ない人数でも安定した売上を作れるようになります。
下記は、1回 24,000円 のメニューを設計した場合の月商イメージです。

EXAMPLE | 例：1回 24,000円 の場合

月間施術数	月 商
5件	120,000円
10件	240,000円
20件	480,000円
30件	720,000円

もちろん、価格を上げるだけで自動的に売れるわけではありません。
高単価化を成立させるには、次の5つの要素を整える必要があります。

01

納得できる理論

皮膚科学・解剖学に
基づく裏付け

02

価格に見合う体験

施術空間・所要時間・
接客の品質

03

専門性の見える化

メニュー名・資料・
カウンセリング

04

継続する理由

コース設計・効果説明・
記録共有

05

安全管理・禁忌

リスク管理・アフター
ケア指導

高単価メニューとは、値上げではなく、価値設計です。
「24,000円である理由」を、お客様自身が納得できるところまで作り込むことが本質です。

WHAT YOU WILL LEARN

ダーマリペアセラピー® 導入講座の全体像

本講座では、単なる美容鍼の手技ではなく、
「高単価メニューとして導入し、運用しつづける」ための理論・技術・設計を体系的に学びます。
鍼灸師免許をお持ちの先生方を対象とした、専門特化型のプログラムです。

THEORY	TECHNIQUE	MENU DESIGN
理論	技術	導入設計
● 美容鍼灸師のための皮膚科学と解剖学 ● ほうれい線・クマ・たるみの構造理解 ● 3層アプローチ理論 ● 500ダルトンルールと皮膚バリア ● ダブル・コラーゲン・アーキテクチャ ● 支持靱帯・SMAS・表情筋の理解 ● 肌のリモデリングと時間軸の設計	● 巡りの層への短期アプローチ術式 ● 筋肉バランス調整法（DFT法） ● 皮膚の土台へのTCV法 ● 特許取得済 ダーマリペアシート® 特許第7855279号／発明の名称『装着型マイクロニードル装置』の活用 ● 禁忌部位の判断と安全管理 ● 撮影・カウンセリング実技 ● 実技中心の体系的トレーニング	● 24,000円級メニューの設計 ● 価格説明とカウンセリングの台本 ● 初回体験 → 本コース導線 ● アフターケア指導と物販 ● 禁忌事項と法的リスク管理 ● 症例記録・写真運用の設計 ● リピートを支える顧客管理

理論・技術・導入設計の3本柱で「説明できる美容鍼」を体系的に身につけ、
高単価メニューとして自院に導入できる状態まで持っていきます。

OFFICIAL TEXTBOOK | EXCERPT

公式テキスト（抜粋）

Derma Repair Therapy® Official Textbook

全日本ダーマリペアセラピー協会

ダーマリペアセラピー® 導入講座

はじめに

その美容鍼に、“再現性”はありますか？

この度は、「ダーマリペアセラピー® 導入講座」にご興味をお持ちいただき、誠にありがとうございます。

本題に入る前に、少しだけ、私たち鍼灸師が置かれている現状について、皆様と視点を共有させてください。

ご存知の通り、私たちの施術の多くは、医師の同意書がなければ健康保険を適用できません。必然的に、私たちは自費治療というフィールドで、クライアントから選ばれ続けるための戦いを強いられています。他院との差別化、新規顧客の獲得、そしてリピート率の向上は、全ての治療院にとって避けては通れない経営課題です。

その有効な解決策の一つとして、「美容鍼」を導入する鍼灸院や鍼灸整骨院が、ここ数年で急速に増加しました。

しかし、ここに一つの大きな課題が潜んでいます。

専門学校の正規カリキュラムに美容鍼の科目はほとんどなく、数千年の歴史を持つ古典の書を紐解いても、現代人が求める「美容」に特化した記述はごく僅かです。

結果として、何が起きているのでしょうか。

どこかの誰かが考えた表面的なテクニックを、見様見真似でメニューに加える治療院。科学的根拠（エビデンス）や作用機序の説明が曖昧なまま、施術者自身も「なんとなく効いた気がする」と感じ、クライアントも「なんとなく小顔になった感じがする」と頷く。そんな、再現性のない『雰囲気美容鍼』とも呼べる施術が、残念ながら市場に広まってしまっているのが現状ではないでしょうか。

私たちは、それで本当に良いのでしょうか。クライアントが支払う対価、そしてその期待に、プロフェッショナルとして誠実に応えられているのでしょうか。

このセミナーは、そうした現状に終止符を打ち、美容鍼灸の「新しいスタンダード」を確立するために立ち上げました。

私たちが目指すのは、単なる改善ではありません。曖昧な経験則からの脱却と、医療従事者としての誇りの再構築です。

本講座でお伝えするのは、単なるテクニックではありません。皮膚科学・解剖学に基づいた確かな理論と、それによって裏付けられた再現性を追求するための理論と技術体系です。

私たちの踏み出す一歩が、先生方の治療院にとって「確かな武器」となり、ひいては全てのクライアント様が、その対価に心から満足できる施術を受けられる未来に繋がることを、切に願っております。

全日本ダーマリペアセラピー協会
主宰 大西 浩史

第1章	【美容鍼灸師のための】皮膚科学と解剖学の再確認	6
1-1.	皮膚構造の基本	
1-2.	肌の生まれ変わり：2つのサイクル	
1-3.	ダブル・コラーゲン・アーキテクチャ（2層建築論）	
1-4.	皮膚のバリア機能と「500ダルトンルール」	
1-5.	表情筋と骨格筋の違い	
1-6.	顔の構造を支える“杭”：支持靱帯（リガメント）	

第2章	なぜ「ほうれい線」はできるのか？	10
------------	-------------------------	-----------

第3章	「目の下のクマ・たるみ」の正体	
	— 疲労のサインか、構造の崩壊か？	11

第4章	3層アプローチ理論	
	— 悩みの「階層」に合わせた最適解	12
4-1.	なぜ、アプローチを3つに分ける必要があるのか？	
4-2.	「深さ」と「時間」の相関関係	

第5章	【短期アプローチ】巡りの層への介入	13
5-1.	そもそも、顔はなぜ浮腫むのか？	
5-2.	「リンパの詰まり」という誤解	
5-3.	ダーマリペアセラピー®推奨メソッド	

第6章	【中期アプローチ】筋肉のバランス調整 — DFT 法	15
6-1.	なぜ「モーターポイント」を狙うのか？	
6-2.	緊張筋と弛緩筋のアンバランス（顔の綱引き）	
6-3.	アプローチの原則：側頭筋とSMASの密接な関係	

- 6-4. 術者の真価が問われる筋：小頬骨筋のパラドックス
- 6-5. SMASとの連携 - 「点」ではなく「面」で引き上げる
- 6-6. DFT法の核心：生理学に基づく周波数選択

第7章 【長期アプローチ】皮膚の土台を再構築する ー TCV法

17

- 7-1. 従来限界とTCV法の思想
- 7-2. TCVの3要素
- 7-3. なぜ「水平刺」なのか？ TCV法を支える3つの医学的根拠
- 7-4. TCV法がもたらす長期効果：
I型・III型コラーゲンによる「インナーメッシュ（構造）」の構築

第8章 独自開発ツール「ダーマリペアシート®」 ー 哲学と安全管理

21

- 8-1. 開発の経緯：構造力学が導き出した「垂直刺入」の必然性
- 8-2. 技術的な優位性：医療機器グレードの部材と特許技術
- 8-3. 鍼灸師として当然の衛生管理：バイオフィルム形成のリスク
～「洗って再利用」が招く感染リスクについて～
- 8-4. 協会の自主規制（レギュレーション）：0.3mmの境界線と国際基準
- 8-5. シートの効果再定義：表皮刺激による肌環境の変化とパラクリン効果
- 8-6. 【重要】経皮吸収環境の変化に関する法的解釈とリスク管理

第9章 お客様の悩み別アプローチ（応用編）

29

- 9-1. ニキビへのアプローチ：破壊ではなく「鎮静と調和」
- 9-2. シミへのアプローチ：排出力の強化
- 9-3. 肝斑へのアプローチ：刺激を避けた「保護と鎮静」
- 9-4. 目のクマへのアプローチ：タイプ別攻略法

第10章 施術効果を最大化するインナーケア

32

- 10-1. コラーゲンペプチドの経口摂取
- 10-2. 筋力トレーニングの推奨 - 「筋肉」は重要な内分泌・免疫調節器官である

第11章	【参考資料】美容医療の基礎知識	34
------	-----------------	----

第12章	安全な施術のために：禁忌事項	35
------	----------------	----

- 12-1. 絶対的禁忌（施術不可）
 - 12-2. 部位別禁忌（その場所だけ避ければOK）
 - 12-3. 相対的禁忌と「美容医療後の待機期間」
 - 12-4. その他の注意点
 - 12-5. 【重要】施術終了時の衛生管理と「2つの仕上げプロトコル」
 - 12-6. お客様へのアフターケア指導（衛生管理）
-

【付録①】	お客様にお渡しする施術後のお願い	38
-------	------------------	----

【付録②】	ダーマリペアセラピー®	
	筋肉アプローチ総合一覧表（完全版）	40

第 1 章

【美容鍼灸師のための】

皮膚科学と解剖学の再確認

私たちの鍼が、クライアントの肌のどこに届き、どのような変化をもたらすのか。それを正確に理解し、自信を持って説明できることは、プロフェッショナルとして不可欠なスキルです。この章では、ダーマリペアセラピー®理論を深く理解するために、基本となる皮膚科学と解剖学の知識を再確認していきましょう。

1-1. 皮膚構造の基本

私たちの施術対象である皮膚は、大きく分けて「表皮」「真皮」「皮下組織」の3層構造になっています。それぞれの層が持つ役割と構成要素を、細胞レベルで正確に把握しましょう。

(1) 表皮(Epidermis): バリアと代謝の最前線

約0.2~0.3mm（ハガキ1枚分程度）の薄い層ですが、外側から内側に向かって、以下の4層構造を形成しています。

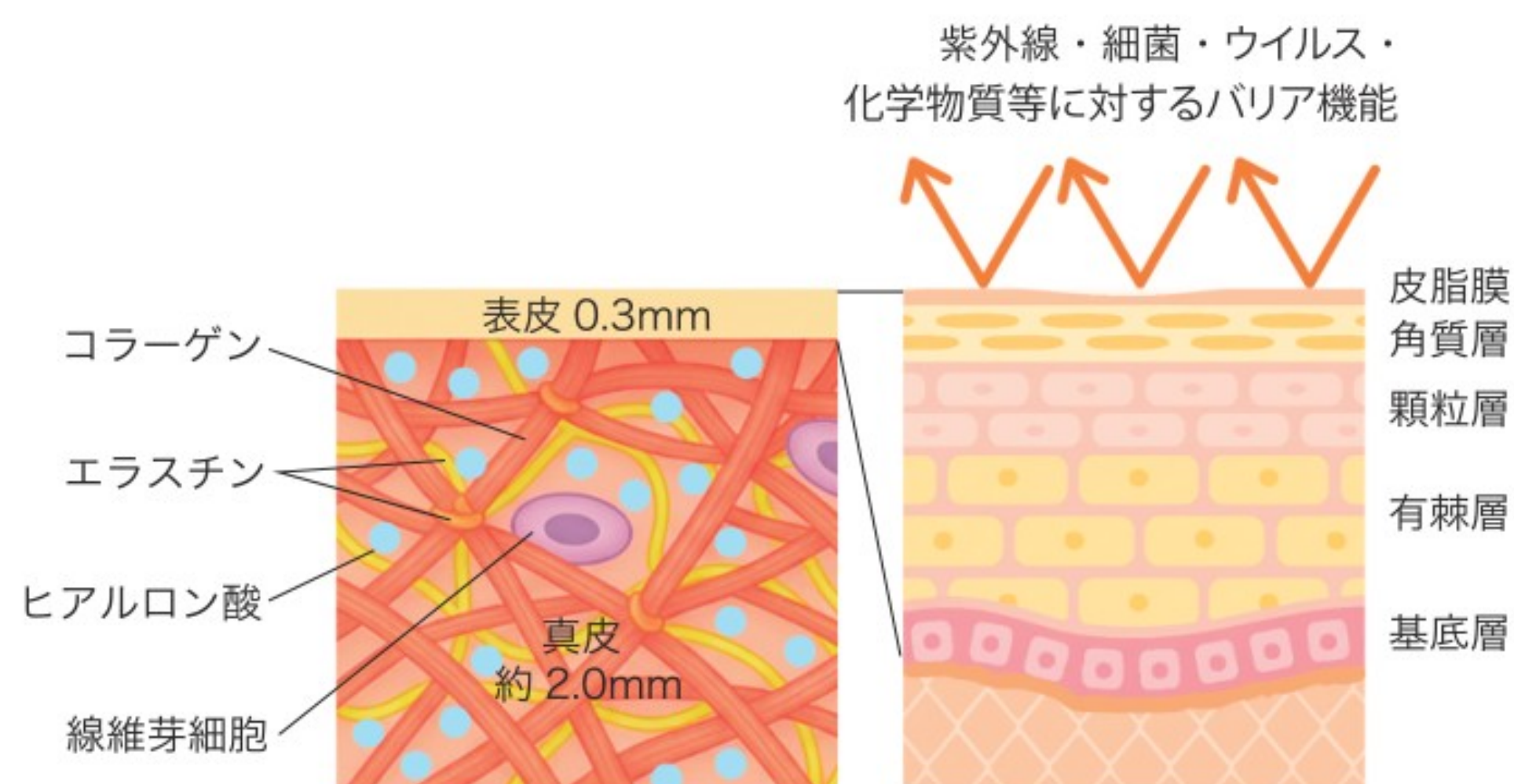


図1 表皮、真皮の断面図

• 角質層 (Stratum corneum) :

最外層にある、厚さわずか0.02mmの層。死んだ細胞がレンガのように積み重なり、その間を細胞間脂質が埋めることで、水分の蒸発を防ぎ、外部刺激から守る強力な「バリア機能」を担っています。

• 顆粒層 (Stratum granulosum) :

紫外線を反射させるケラトヒアリン顆粒を含み、肌の透明感を左右します。

• 有棘層 (Stratum spinosum) :

表皮の中で最も厚い層です。ここにはランゲルハンス細胞（免疫細胞）が存在し、リンパ管とも密接な関わりを持っています。

• 基底層 (Stratum basale) と基底膜 (Basement Membrane) :

表皮の最深部にある「基底層」は、新しい細胞が生まれる場所です。そして、表皮と真皮を波状にしっかりと繋ぎ止めているのが「基底膜」です。表皮には血管が通っておらず、栄養補給はすべてこの「基底膜」を介して行われます。つまり、基底膜の状態と真皮の血流こそが、美しい肌を生む生命線なのです。

(2) 真皮 (Dermis) : 肌の本体と「細胞外マトリクス」

表皮の内側にある約2mmの層で、肌のハリや弾力の本体です。ここは、単なるクッションではなく、「線維芽細胞」と、それが作り出す「細胞外

マトリクス（ECM）」によって構成される、極めて動的な組織です。

- **線維芽細胞（Fibroblast）：**

真皮の司令塔であり、美肌の“母”なる細胞です。後述するコラーゲン、エラスチン、ヒアルロン酸のすべては、この細胞によって生成・維持されています。

- **細胞外マトリクス（Extracellular Matrix）：**

線維芽細胞を取り巻く環境そのものです。建物に例えると分かりやすいでしょう。

- **コラーゲン（膠原線維）：**

真皮の約70%を占める、丈夫な「鉄筋」。肌の強度と構造を支えます。

- **エラスチン（弾性線維）：**

鉄筋を繋ぎ止める「スプリング（留め具）」。
肌にしなやかな弾力を与えますが、一度壊れると再生しにくい組織です。

- **ヒアルロン酸（基質）：**

鉄筋とスプリングの間を埋める「セメント（ゼリー状充填剤）」。
大量の水分を抱え込み、肌のボリュームと潤いを維持します。

(3) 皮下組織（Subcutis）

主に皮下脂肪からなり、保温や衝撃吸収の役割を担います。

(4) SMAS（スマス）層 / 表情筋（Mimetic Muscles）

皮下組織と筋肉の間にある、薄い膜状の組織が「SMAS（表在性筋膜）」です。皮膚と筋肉をつなぎ、表情を動かすための重要な役割を果たしています。

1-2. 肌の生まれ変わり：2つのサイクル

肌の新陳代謝は、表皮と真皮で全く異なる時間軸とメカニズムで動いています。

(1) 表皮のターンオーバー（約28日+年齢）

表皮の細胞が生まれ、垢となって剥がれ落ちるまでの代謝サイクルです。理想的な周期は「約28日」と言われますが、これは20代の話です。一般的に「年齢 × 1.5倍」程度まで遅くなると言われており、40代では約60日かかることも珍しくありません。

(2) 真皮のコラーゲンサイクル（破壊と再生のスイッチ）

真皮の代謝は数年単位と非常に緩やかですが、スイッチが入れば劇的に加速します。そのスイッチを握っているのが「線維芽細胞」です。私たちは以下の2つのルートで、休眠している線維芽細胞を目覚めさせます。

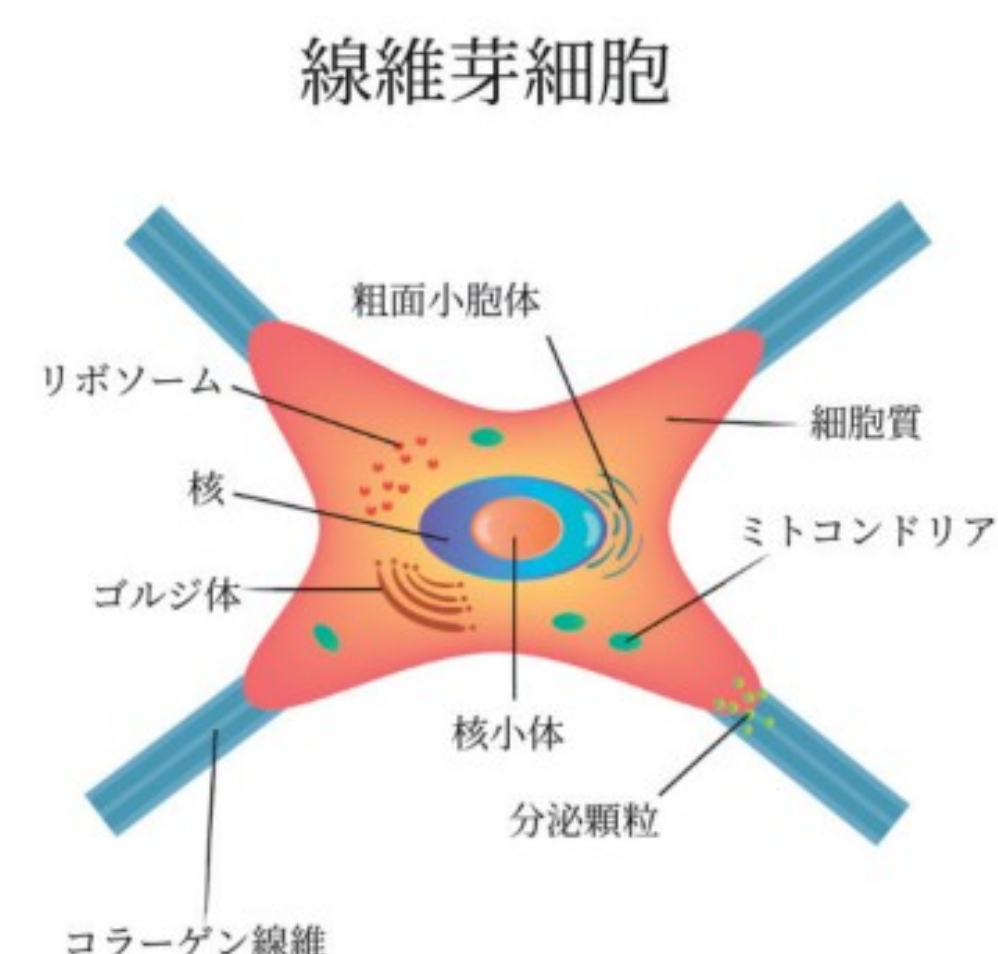


図2 線維芽細胞

- **物理的刺激による活性化（メカノトランスダクション）：**

鍼が真皮層に刺入されると、細胞の骨格に変形が生じます。線維芽細胞はこの物理的な歪みを感知し、「組織が壊れた！修復せよ！」というシグナルを発信して、コラーゲンの増産体制に入ることが知られています。

- 化学的刺激による活性化（炎症と栄養）：
 鍼による微細な組織損傷（マイクロトラウマ）により、サイトカインなどの生理活性物質が放出され、修復命令が出されます。また、血流に乗って運ばれてきた「コラーゲンペプチド」なども、生成を促す材料兼シグナルとして働きます。

これらの刺激により、まずは柔らかく瑞々しい「Ⅲ型コラーゲン（ベビーコラーゲン）」が生成され、その後成熟過程を経て強固な「Ⅰ型コラーゲン」が優位になっていくとされています。この長期的なりモデリングを視野に入れた設計が、本メソッドの特徴です。

では、一方で、皮膚が衰える（＝老化する）とは、どういう現象でしょうか？これを端的に表現すると、真皮のコラーゲンとエラスチンが減少し、真皮そのものが菲薄化するという事です。これには2つの原因があり、ひとつは、線維芽細胞の活性が低下し、新たなコラーゲンやエラスチンが作られにくくなること。もうひとつは、糖化、酸化と並んで、老化の原因とされる体内の“慢性炎症”により、コラーゲンとエラスチンの分解が促進されるからです。

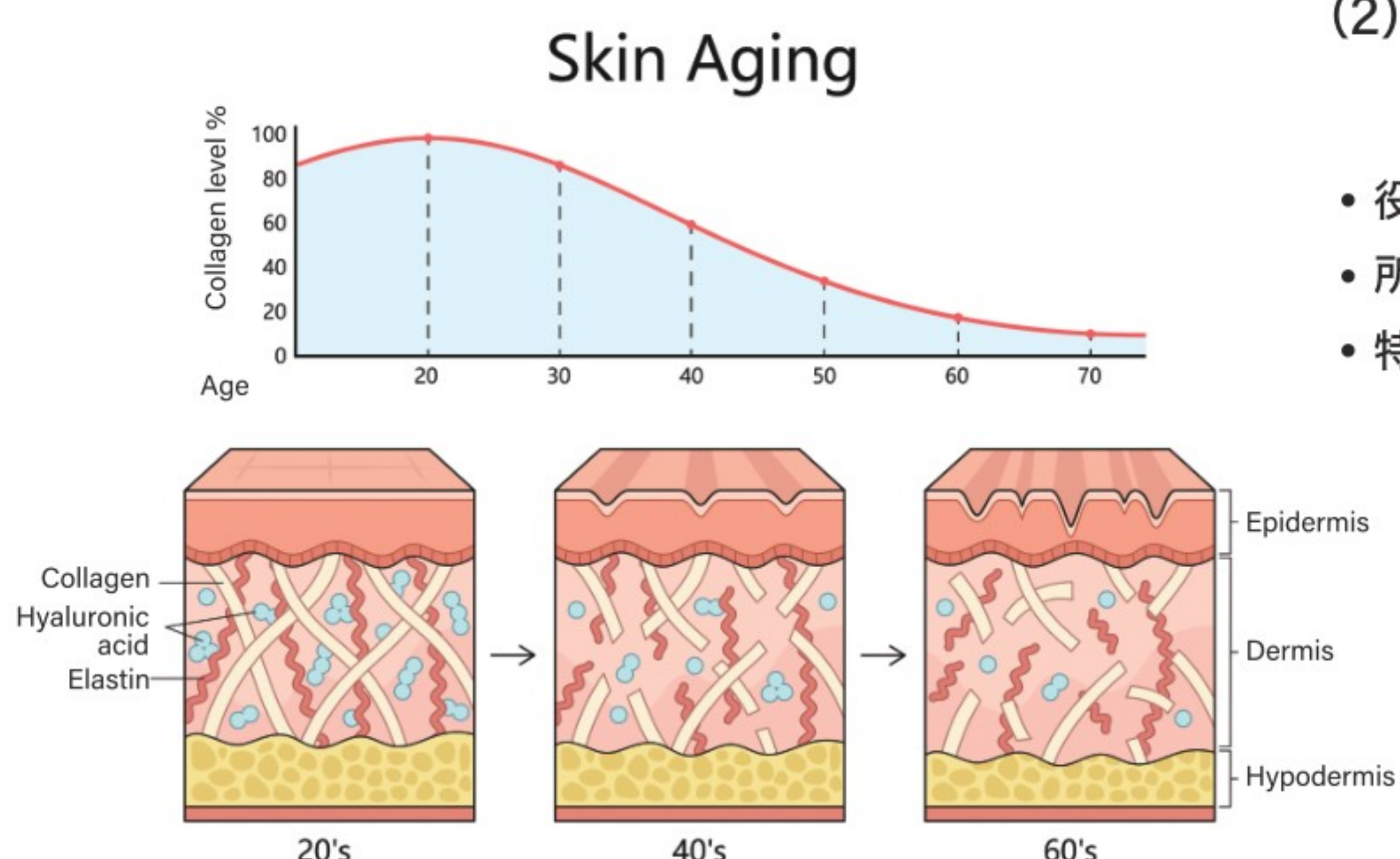


図3 皮膚の老化

1-3. ダブル・コラーゲン・アーキテクチャ（2層建築論）

「コラーゲンを増やせば肌は若返る」。これは半分正解で、半分間違いです。家を建てる時に「木材」と「コンクリート」の役割が違うように、皮膚を支えるコラーゲンにも明確な「役割分担」があります。当協会では、以下の「2層構造」を理解することこそが、たるみ治療の核心であると考えます。

(1) 深層の柱：Ⅰ型・Ⅲ型コラーゲン (Structure)

- 役割：【クッションと強度】
- 所在：真皮層全体（特に網状層）。
- 特徴：真皮の約90%を占める太い線維です。
 これが減少すると肌が痩せ、深いシワが刻まれます。
 - **I型**：硬くて頑丈な「鉄骨」。肌の厚みを作ります。
 - **III型**：柔らかい「ベビーコラーゲン」。肌の柔軟性と保水力を担います。
- アプローチ：物理的な厚みを出すために、後述する「TCV法」で真皮深層を刺激し、この柱を太く再構築します。

(2) 浅層のアンカー：Ⅳ型・Ⅶ型コラーゲン (Anchor)

- 役割：【接着と固定】
- 所在：表皮と真皮の境界線（基底膜ゾーン）。
- 特徴：これらはボリュームを出すものではありません。表皮が真皮からずり落ちないように繋ぎ止める「マジックテープ（係留線維）」の役割を果たしています。
 - **IV型**：繊維状ではなく、「シート状（網目構造）」を形成します。表皮と真皮の間にある「基底膜」の主成分です。表皮細胞が並ぶための土台であり、真皮からの栄養を表皮へ渡す

フィルターの役目も果たします。

- 。VII型^{けいりゅうせん い}：「係留線維」と呼ばれます。基底膜（IV型）から真皮側へループ状に伸び、真皮のI型・III型コラーゲンに絡みつ়くことで、表皮と真皮を強力に繋ぎ止める「アンカー（留め具）」です。

- ・重要性：いくら深層（I型）が分厚くても、表面を留めているアンカー（VII型）が緩んでいれば、皮膚は重力に負けて「雪崩」を起こします。これが「たるみ毛穴」や「表面的なヨレ」の正体です。

- ・アプローチ：「ダーマリペアシート® (0.3mm)」により、この接合部をピンポイントで刺激し、アンカーの再構築を促すことを目指します。

結 論：「中身を詰める（I型）」と「皮をピンと張る（VII型）」の2つのコラーゲンを同時にケアする「ダブル・アーキテクチャ」の発想こそが、従来のメソッドでは得にくい、構造的な持続力を生み出すと私たちは考えています。

1-4. 皮膚のバリア機能と「500ダルトンルール」

「この化粧水、肌の奥まで浸透するの？」クライアントから、こんな質問を受けたことはありませんか？ ここで重要になるのが、皮膚科学の鉄則「500ダルトンルール」です。健康な皮膚の角層には強力なバリア機能があり、一般に、分子量500ダルトンを超える物質は、健全な角質層を透過しにくいとされています（いわゆる500ダルトンルール）。一般的なコラーゲンの分子量は約30万です。これは、テニスコートの金網のフェンス（角層の隙間）にバスケットボール（コラーゲン分子）を投げつけるようなもので、奥（真皮）にそのまま

到達することは通常考えにくいと言えます。だからこそ、物理的にバリアを突破し、直接真皮層を刺激できる「鍼」というアプローチが、他の手段では代替しにくい独自の価値を持つのです。

1-5. 表情筋と骨格筋の違い

- ・骨格筋との違い：

手足の筋肉（骨格筋）が「骨と骨」に付着しているのに対し、顔の筋肉（表情筋）の多くは「骨と皮膚」、あるいは「皮膚と皮膚」に直接付着する「皮筋^{ひきん}」です。

- ・皮膚を道連れにする構造：

皮筋である表情筋が動くと、付着している皮膚もダイレクトに動きます。これが豊かな表情を生む一方で、筋肉の衰えやコリが、そのまま皮膚の「たるみ」「シワ」として表面化してしまう宿命的な構造を持っています。

1-6. 顔の構造を支える“杭”：支持靱帯（リガメント）

たるみを語る上で、筋肉やSMASと同様に重要なのが「リガメント（支持靱帯）」の存在です。これは、顔の組織（皮膚・脂肪・筋肉）が重力でずり落ちないように、骨から皮膚に向かって貫くように伸びている強固な線維束、「杭」のようなものです。加齢によりこの「杭」が緩むと、支えを失った組織が雪崩のように下垂します。特に、「頬骨リガメント」の緩みはほうれい線を、「下顎リガメント」の緩みはマリオネットラインやブルドッグ顔を引き起こす直接的な原因となります。

まずは無料オンライン説明会へ

ここまでお読みいただき、ありがとうございます。

お客様が納得できる理由をつくること。

施術者が自信を持って説明できること。

国家資格者としての専門性を、正しく価値に変えること。

無料オンライン説明会の主な内容

- ダーマリペアセラピー® の全体像と他メニューとの違い
- 24,000円級メニュー化の具体的な考え方と価格根拠
- 導入講座で学べる理論・技術・導入設計の詳細
- 講座日程・参加条件・受講後のフォロー体制
- 実際の導入院の事例と、自院への導入可否のご相談

▶ **次ページの QRコード または 申込みフォームよりお申し込みください**

オンライン開催 / 参加費無料 / 鍼灸師免許をお持ちの方限定

全日本ダーマリペアセラピー協会

ダーマリペアセラピー® 導入講座

お申し込み・お問い合わせ・免責

無料オンライン説明会へのお申し込みは、下記のQRコードまたはURLよりお手続きください。
本資料に関するお問い合わせも、同じ窓口にて承っております。



SCAN TO APPLY

無料説明会お申し込み QR

FREE ONLINE BRIEFING | オンライン / 参加費無料

ダーマリペアセラピー® 導入講座 説明会

- ・対象：鍼灸師免許をお持ちの方
- ・開催形式：オンライン（Zoom）
- ・参加費：無料
- ・所要時間：約60分

[▶ 無料説明会に申し込む](#)

ASSOCIATION | 協会情報

全日本ダーマリペアセラピー協会

ダーマリペアセラピー® 導入講座 / 主宰：大西 浩史

Japan Derma Repair Therapy Association | 公式サイト：<https://dermarepairtherapy.com/lp/>

DISCLAIMER | 免責事項

- ・本資料は、全日本ダーマリペアセラピー協会が、鍼灸師および美容鍼灸師の先生方向けに作成した参考資料です。本資料の内容は、ダーマリペアセラピー® 導入講座の考え方の概要を紹介することを目的としており、個別の治療効果を保証するものではありません。
- ・本資料に掲載された皮膚科学・解剖学・生理学に関する記述は一般的な知見に基づくものであり、特定の医療行為や診断を推奨するものではありません。臨床判断は、各施術者の責任において行ってください。
- ・本資料に記載された価格・収支シミュレーション・メニュー設計は、あくまで一例であり、実際の収益・成果を保証するものではありません。導入時には、各院の地域特性・客層・運営方針に応じて、適切に設計・運用してください。
- ・ダーマリペアシート®（特許第7855279号／発明の名称『装着型マイクロニードル装置』）は、全日本ダーマリペアセラピー協会が管理する特許取得済みの独自ツールです。
 - ※ 特許は技術的構成に関する権利であり、特定の効果・成果を保証するものではありません。
- ・「ダーマリペアセラピー®」および「ダーマリペアシート®」は、全日本ダーマリペアセラピー協会の登録商標です。
- ・本資料の無断転載・複製・二次利用を禁じます。引用の際は出典を明記してください。
- ・QRコードおよびURLのリンク先は、予告なく変更される場合があります。最新情報は公式サイトをご確認ください。